



亜成体。幼体時の黄色みは薄れ、赤い色も少なくなっている



幼蛙時は鮮やかな体色で、「クリスマスヒキガエル」などの名で流通する

和名 **キマダラヒキガエル**

学名 *Bufo spinulosus*

分布 エクアドル、ボリビア、アルゼンチン、ペルー、チリ

体長 40~90mm

食性 昆虫類、節足動物など

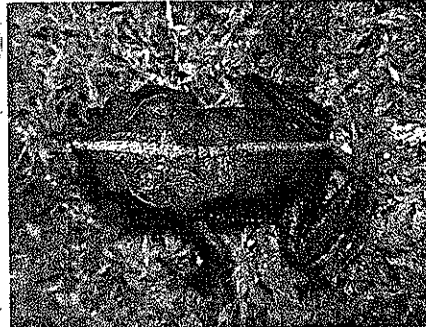
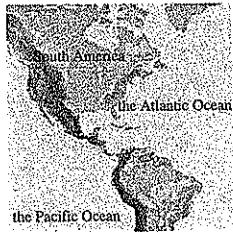
やや小型のヒキガエル。南米西部に分布する。幼体時は黒っぽい体色に黄色・暗緑色の斑が入り、さらに背のイボ状突起の先端が鮮やかな赤なので非常に派手。対して成体では赤みは失せ、暗緑色と黄褐色の斑模様となる。複数の亜種を含み、中には赤い斑が残るものもある。アンデス山脈では本種は低木林や草原に生息するが、分布地南部では植林地帯にも見られる。乾燥した環境に耐え、水場からかなり離れた場所でも見つかる。本種はほとんどが幼体時の小さなサイズで流通し、「チリアンステルツナー」などと別属のような流通名が付けられているが、れっきとしたヒキガエル属で、飼ひ込めば意外なほど大きくなる。また、幼体時の配色から「クリスマスヒキガエル」と呼ばれることもある。

●飼育下での繁殖 ほとんどない



メスと思われる亜成体。特徴的な飾りは見られない

Photo/Endless Zone



耳状の隆起が発達し始めたオス。さらに成熟すると目の上の突起もクレスト状に伸びる

和名 **コノハヒキガエル**

学名 *Bufo typhonius*

分布 南米北部から中部

体長 40~75mm

食性 昆虫類、節足動物など

この名で呼ばれるヒキガエルには明らかに数種の別種が含まれ、それぞれが雌雄・成長具合により異なった姿を持つため、分類は非常に混乱している。本種の学名自体、カンムリヒキガエル *Bufo margaritifer* のシノニム（同物異名）として使用しない場合も多い。ここではコノハヒキガエルとしての特徴を挙げる。四肢はやや長く、吻端は突出する。成熟するにつれ、オスは目の上にクレスト状の突起が生じ、頭部両側にも耳状の隆起が伸びる。また、背部正中線の上には刺状の突起が現れる。メスにはこれらの特徴は出ない。体色は褐色から明褐色で、正中線の上に明色の条線が入る場合が多い。森林の林床に生息し、独特の体型は落ち葉に擬態していると思われる。アリなどの小さな昆虫や甲虫類を捕食する。前述のとおり、カンムリヒキガエルやピノキオヒキガエル *Bufo depressilis* といった類似種を持ち、それらとの関係を含めてこのグループはコノハヒキガエル複合体として分類・研究が待たれる。

●飼育下での繁殖 ほとんどない